令和５年８月現地情報

糸魚川駐在

～　マリンドリーム能生ではベニズワイガニの販売が好調　～

世間では夏休みの時期を迎えています。マリンドリーム能生（以下、「マリン」）では観光客を対象としたベニズワイガニの販売が好調です。マリンで販売される茹でベニズワイガニは、上越漁協能生支所所属のベニズワイガニかご漁船が、自分の店で販売する分だけ漁獲し、茹でて販売するといういわゆる6次産業化の見本のような形態で、好調な販売に対応するため出漁日数も増加しています。

４日も何隻かのベニズワイガニかご漁船が水揚げを行い、港では大きさや脚折れ等により選別を行い、その後釜茹で作業等が行われ港は活気づいていました。

全国的な傾向ですが、コロナの５類移行等により観光客が増加しており、当地区においてもお客様がコロナ禍と比較して増加しています。地域に賑わいが戻り、発展していけば良いと考えています。

水揚げと選別風景

お客様で賑わう様子

令和５年８月現地情報

新潟駐在

～寺泊港で漁業体験研修が開催されました～

８月１日、長岡市寺泊の寺泊港で漁業体験研修が開催されました。漁業就業に興味があり体験乗船をしてみたいという方を募集し、高校生から一般の方まで幅広い方々が参加しました。

今回、寺泊漁協で操業している春日丸さんにご協力をいただき、マダイを狙ったごち網漁業を体験させていただきました。当日は天気も良く、順調に操業が行われました。網にはマダイの他、チダイやアジ、エソが入りました。

研修生は熱心に操業を見学したり、乗組員の話を聞いていました。

今年度の体験乗船の新規募集は終了しましたが、漁師になりたい、漁業就業に興味があるという方がおりましたら、お気軽に水産課までご相談ください。

乗組員より説明

網揚げ

マダイの水揚げ

選別・箱詰め作業

令和５年８月現地情報

村上駐在

～「サザエ」つかみ取り大作戦‼ in 粟島～

８月 26 日、粟島浦村で「サザエ」つかみ取り大作戦‼ （第１弾）が開催されました。このイベントは、今年度から始動した観光業と水産業を繋ぐ「粟島地区舫いプロジェクト」の取組の一つとして企画されたものです。

当日は、一般公募で島外の観光客６名が参加しました。開会式では、水産海洋研究所の研究員から粟島の藻場と巻貝の関係について説明があり、サザエのような巻貝が海藻の芽を食べることで藻場が減ってしまうこと、サザエを捕ることが粟島の藻場の回復につながることなど話がありました。参加者は、粟島浦漁協の了解のもと※、ひざ下ほどの水深の区画内のサザエを見つけてつかみ取りします。はじめは、発見しづらく苦戦している様子でしたが、１時間ほど、貴重な体験を楽しんでいました。体験後は、サザエや地元でとれたジャガイモの浜焼きや冷汁がふるまわれ、粟島の美味しい食も楽しむことができ、大満足の様子でした。

このプロジェクトは、粟島観光協会と粟島浦漁協が中心となって共同で展開しています。粟島の水産業と観光業がタイアップすることで、粟島の魅力がより発揮され、地域が活性化することを期待したいです。

※　粟島浦村沿岸では共同漁業権が設定されており、粟島浦漁協の組合員以外はサザエを採捕することができません。

つかみ取りの様子

浜焼きの様子

令和５年８月現地情報

佐渡駐在

～マガキ養殖漁業者意見交換会～

８月１０日、佐渡島内のマガキ養殖漁業者を対象に意見交換会が開催されました。

この会は新潟県佐渡水産技術センターが主催したもので、福井県立大学の浜口教授と国立水産研究・教育機構の中山主任研究員をお招きし、島内のマガキ主要産地である加茂湖漁協と佐渡漁協佐和田出張所の漁業者とそれぞれ意見交換を行いました。

当日は現地でカキの様子を見学した後に意見交換が行われました。自分たちの置かれている環境について専門家の意見を聞くことができたほか、他県での先進的な取り組みについての紹介を受け、大変刺激を受けている様子でした。

このような会を通して島内水産業が活発になるとともに、新たな取り組みへと発展していくことを期待しております。

加茂湖での現地視察

佐和田出張所での意見交換